

## 〔編 集 後 記〕

脳と神経の特集号もこれで5回目である。脳機能研究施設ができてから、本学における研究活動も一段と活発となり本誌でみるような充実した報告が得られている。

毎月1回脳研の集会が開かれているが、そのおり、東京医科歯科大学薬理学教室の大塚正徳教授のGABAに関するご講演を願ったが、それを総説としてご寄稿いただいた。これは本誌を飾るに真にふさわしいものであると思う。中枢神経系におけるシナプス伝達の抑制物質として、最近の医学のトピックスである。一読をお勧めする。ここに改めて大塚教授に感謝するしだいである。

昨年わたくしが本誌の編集幹事であった関係上、その間本誌についていろいろのご意見が方々から寄せられた。最も激しい提案は若手の教授と古手の助教授から本誌を廃止せよということであった。確かに本誌はこの時代にふさわしくないようにわたくしにも思われる。外国文の雑誌に研究論文を掲載することは真に容易になったし、その方が手早く、しかも全世界に読まれるのである。いまさら会員数数百の本誌に掲載することもあるまい。原著はナンセンスであるという。

千葉医学会雑誌はこの点だけでもその体質を改善して行かねばならないと思う。その現われの一つとして昨年来総説を重視した。編集会議はこれを実行してきた。ご存じのようにこれまで掲載された総説は、ことごとくわれわれに深い感銘を与えてくれるものばかりであった。数百の会員のみなさん、これらをお読みいただいたであろうか。会員に利益がもたらされれば、そんなところに本誌存続の意義が発見できるのではなからうかと考えられる。

次の申込みは、諸外国の図書館をみると、日本語で書かれた同様の他大学の機関誌が並んでいるのに、本誌が見当たらないということで、雑誌を積極的に交換したらという提案であった。現在本誌の交換部数は国内116部、外国13部である。外国との交換が非常に少ない。これを多くする方法と本誌の内容を改善することはうらはらの関係にあるように思われる。がしかし両者を考え合わせつつ本誌はちゅうちょすることなくいくつかの点で改善されて行かねばならないと思う。

(本間三郎)